

# 株式会社 ニッキ

## 2025年3月期第2四半期 決算説明会資料



持続的な成長・発展および企業価値の向上に向けて

2024年11月27日

(証券コード6042・東証STD)

1. 会社概要
2. 2025年3月期第2四半期決算概要
3. 2025年3月期の業績見通し
4. 新中期経営計画について
5. 参考資料

---

1. 会社概要

2. 2025年3月期第2四半期決算概要

3. 2025年3月期の業績見通し

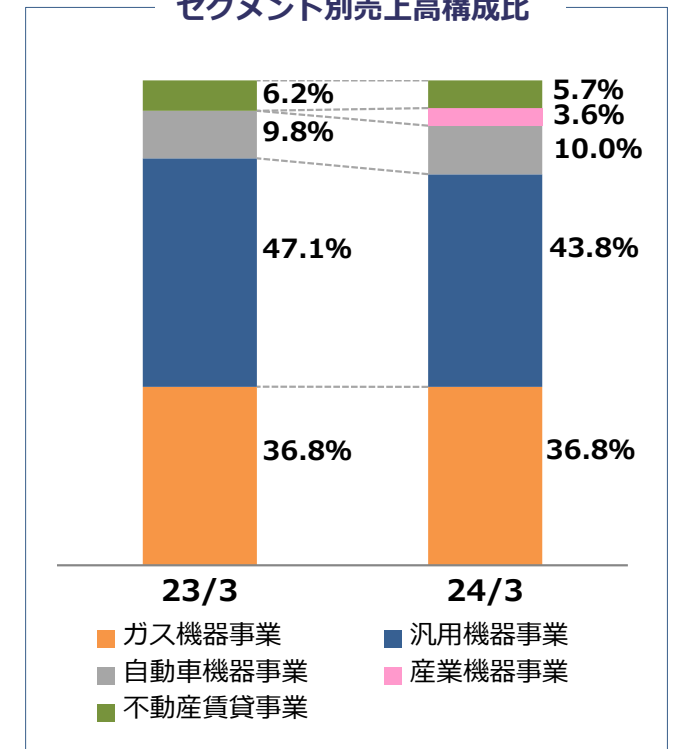
4. 新中期経営計画について

5. 参考資料

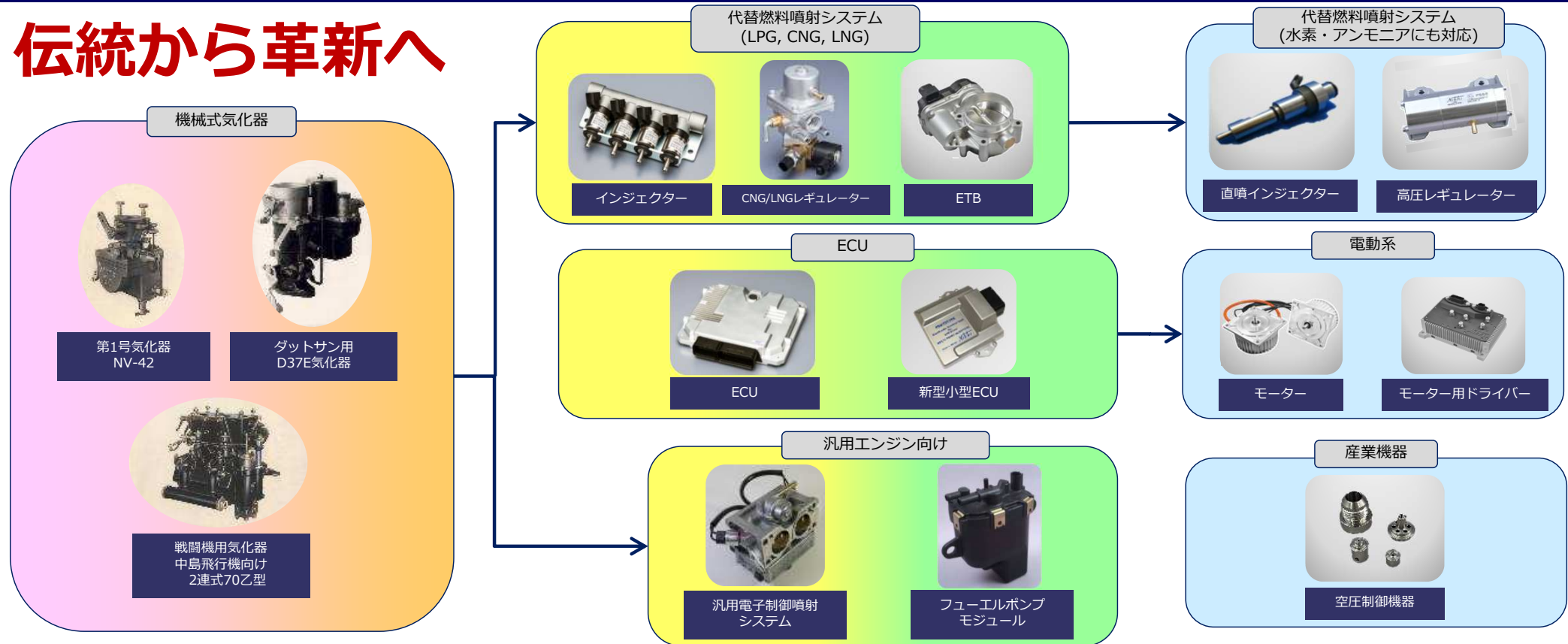
# 会社概要

商号	株式会社ニッキ
所在地	神奈川県厚木市上依知3029番地
資本金	500百万円
代表者	取締役社長 和田 孝
設立	1932年2月
従業員数	506名（連結ベース、2024年3月末）
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 天然ガス・LPG燃料供給システムの設計・開発および関連機器の製造</li> <li>■ 船舶・小型エンジン用気化器および燃料関連デバイスの設計・開発および製造</li> <li>■ 自動車エンジン用燃料関連デバイスの設計・開発および製造</li> <li>■ 空圧制御機器部品の製造</li> <li>■ 水素・アンモニア燃料供給システムの設計・開発および関連機器の製造</li> <li>■ モーター制御機器・モーター制御プログラムの設計・開発</li> <li>■ 不動産賃貸事業</li> </ul>
関係会社	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ NIKKI AMERICA, INC.</li> <li>■ 瀋陽日新気化器有限公司</li> <li>■ NIKKI INDIA FUEL SYSTEMS PRIVATE LIMITED</li> <li>■ NIKKI (THAILAND) CO., LTD.</li> <li>■ NIKKI KOREA CO., LTD.</li> <li>■ (株)ニッキ ソルテック サービス、ニッキ・テクノ(株)</li> <li>■ (株)神奈川精工</li> </ul>

セグメント別売上高構成比



## 伝統から革新へ



- 1932年2月 自動車・農業エンジン 創立
- 1933年3月 自動車・航空機 エンジン用気化器 開発
- 1946年 自動車・農業エンジン 気化器、燃料ポンプ開発
- 1963年3月 自動車用LPGキャブレション装置開発
- 1982年 自動車用電子制御気化器 自動車用スロットルボディ開発
- 1985年 船舶機用気化器 開発
- 1991年 圧縮天然ガス燃料 システム開発
- 2001年 LPG電子制御気体 噴射システム開発
- 2006年 汎用電子制御噴射 システム製造
- 2009年 ガス用トップフィード インジェクター開発
- 2010年 CNG用1段式 レギュレーター 開発
- 2014年 LNG用1段式 レギュレーター 開発
- 2015年 熱交換器開発
- 2017年 新型小型ECU開発
- 2017年 フューエルポンプモジュール 開発
- 2018年 ETB（重量車向け 高耐久品）開発
- 2020年 水素用 インジェクター、レギュレーター 開発
- 2021年 48・72Vモーター ドライバー 開発
- 2021年 アンモニア用 インジェクター、レギュレーター 開発
- 2023年 水素用 筒内直噴 インジェクター 開発
- 2024年 産業機器 部品製造



# 事業部門の構成と製品

事業セグメント	ガス機器事業	汎用機器事業	自動車機器事業	産業機器事業	電動系・水素関連事業	不動産賃貸事業
市場	日本、北米、中国、インド、ヨーロッパ	米国、中国、日本	北米、日本、インド、東南アジア、中東	日本	中国、インド、ヨーロッパ、日本	東京都内に賃貸用ビルを4棟所有
主要顧客	いすゞ自動車 グローバルコンポーネントテクノロジー 豊田自動織機 広西玉柴機器 (中) 三一集団 (中) 東風康明斯 (中) 福田康明斯 (中) Maruti Suzuki (印) Westport (欧)	Briggs & Stratton (米) Kohler (米) Cummins Power Generation (米) 常柴股份有限公司 (中) 光陽工業 (台湾) 川崎重工 ヤンマー パナソニック クボタ	グローバルコンポーネントテクノロジー 日産自動車 トヨタ自動車 マツダ RANE (印) Tokai Imperial Rubber (印) ZF Commercial Vehicle (印)	空圧制御機器メーカー	中国EVメーカー インド農機メーカー Westport (欧) 日本農機メーカー 日本防災ポンプメーカー 日本空調機器メーカー等	本社厚木工場用地の一部を賃貸中
製品	<ul style="list-style-type: none"> <li>CNG車、LPG車、フォークリフト向けの燃料供給システム (ECU、インジェクター、ベーパーライザー、レギュレーター、熱交換器、フィルター、ミキサー、ETB、EGRバルブ等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>汎用気化器 (農業用、産業用)、船舶用気化器、二輪車向け噴射システム、フューエルポンプモジュール、GHP機器等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガソリン車用のスロットルボディ、気化器、アクセルワイヤユニット、ダイキャスト部品、フォークリフト向けキャブレター</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>空圧制御機器部品 (ガイド)等</li> </ul> <p>(注)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>2023年9月に、(株)神奈川精工を子会社化し産業機器事業を開始</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モーター&amp;ドライバー、電動ブレーキブースター、スマートバルブ、水素用燃料供給システム (インジェクター、レギュレーター、エアバルブ)</li> </ul>	
生産拠点	日本、中国、タイ	インド、中国、日本	日本、インド	日本	日本、中国、インド	

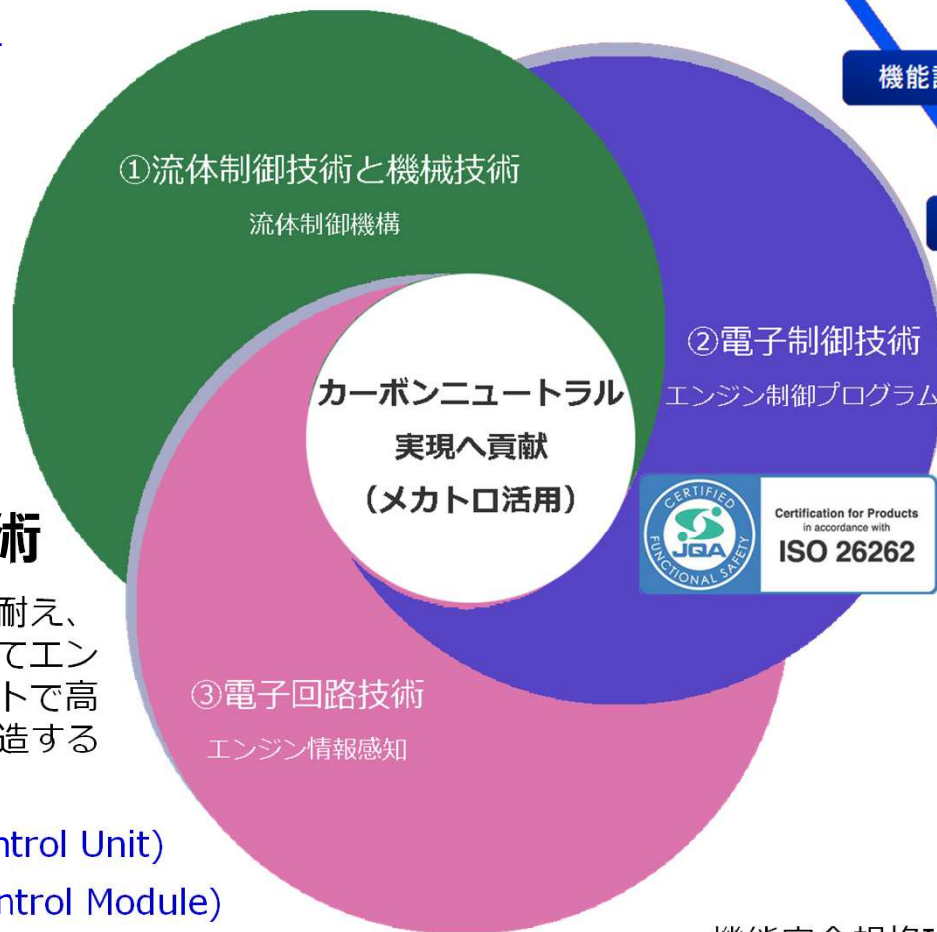
# 当社の強み 1 - (1)

## ■ ニッキのモノづくりを支える三つの基盤技術

### ① 流体制御技術と機械技術

制御機構の最適化により、液体から気体までの幅広い燃料を制御する流体制御と機械制御の技術

- ⇒ ガスインジェクター
- レギュレーター
- 遮断弁
- ETB(Electric Throttle Body)
- ポンプ等



### ③ 電子回路技術

厳しい使用環境・条件に耐え、制御対象をセンシングしてエンジンを制御するコンパクトで高信頼性なECUを設計・製造する技術

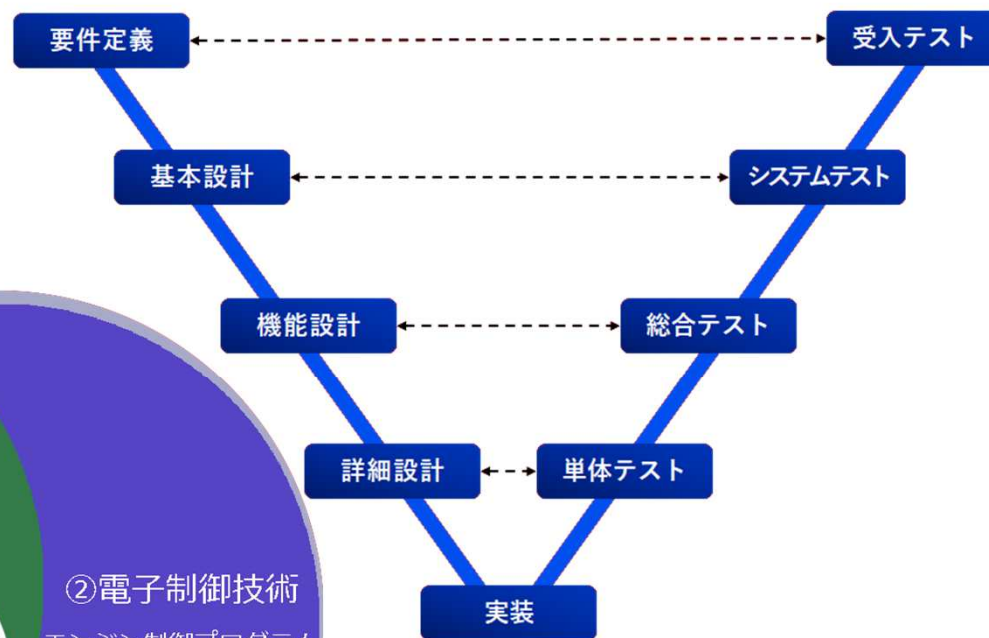
- ⇒ ECU(Electronic Control Unit)
- ECM(Electronic Control Module)

### ② 電子制御技術

外気温、大気圧、エンジン稼働条件などによつて的確な燃料噴射・点火・スロットル制御を実施し、最適な燃焼、スムーズな加速・トルク、排ガス浄化を実現する電子制御のための開発手法とソフトウェア対応ノウハウ

- ⇒ 制御プログラム

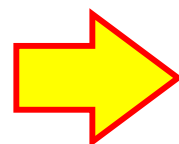
機能安全規格ISO26262を取得するとともに、ソフトウェアの開発/検証手法を確立



# 当社の強み 1 - (2)

## ■ 水素燃料への対応

流体制御技術を活用



水素用制御機器を開発

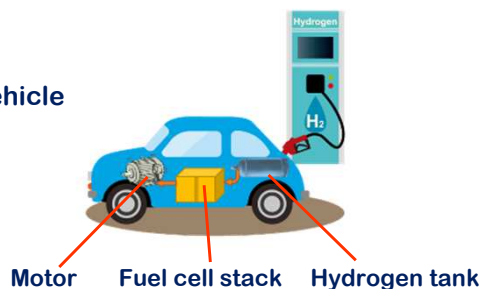
水素は、使用してもCO2を排出しない次世代のエネルギーとして期待されている。ニッキは既存のガス事業技術（流体制御技術）を活用し、水素用制御機器を開発。

燃料電池車

Fuel Cell Electric Vehicle



FCEV

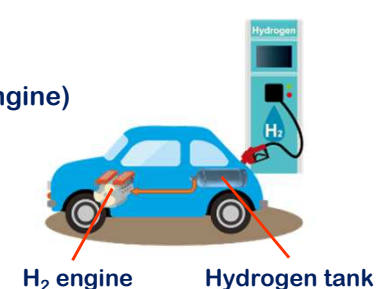


水素エンジン車

ICE (Internal Combustion Engine)



ICE



コントロールバルブ

インジェクター



エアバルブ

スロットルボディ



高圧レギュレーター



安全弁

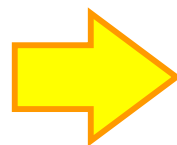
**ニッキ水素用制御機器は、燃料電池車、水素エンジン車のどちらにも対応可能**



# 当社の強み 1 - (3)

## ■ 電動化への対応

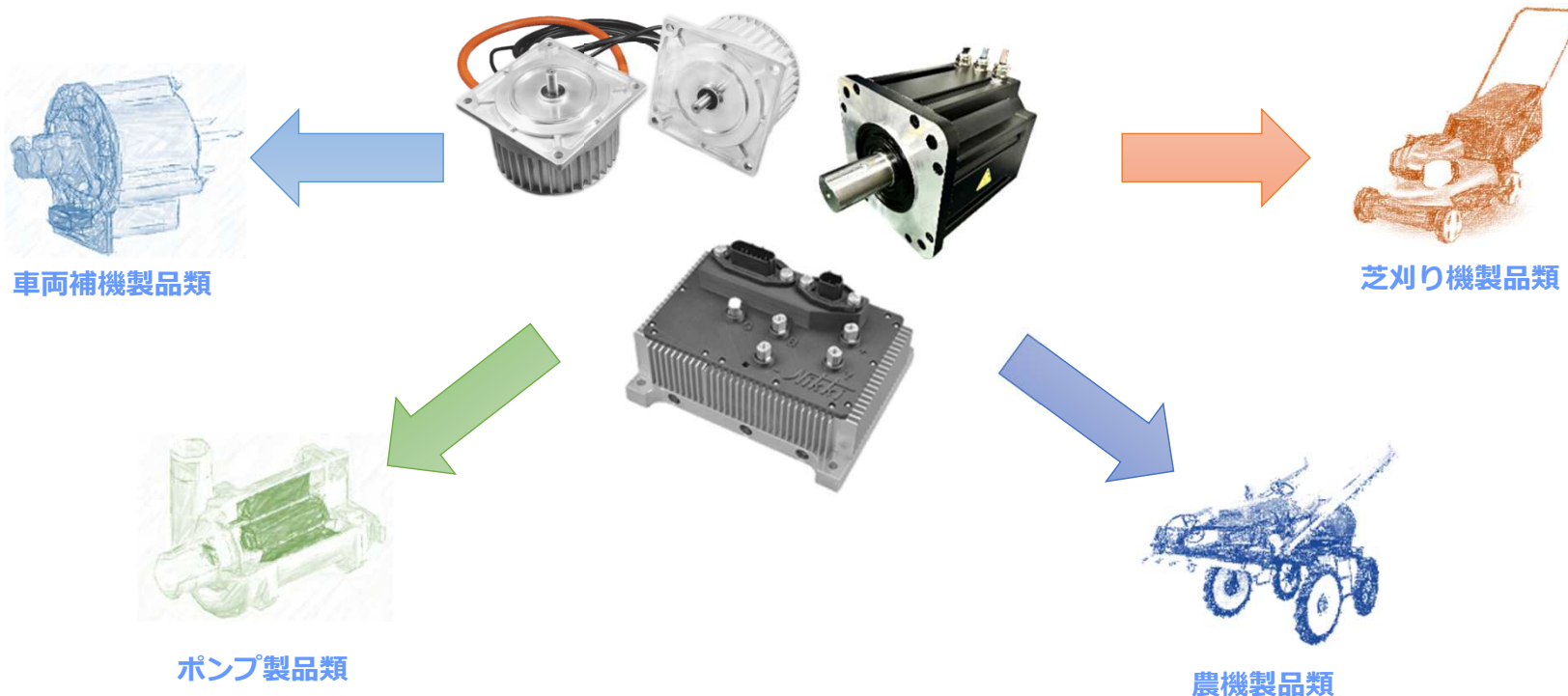
電子制御技術、電子回路技術を活用



サーボモーター&ドライバーを開発

電子制御技術、電子回路技術を活用し、高応答・高精度な位置決めを得意とするサーボモーターを開発

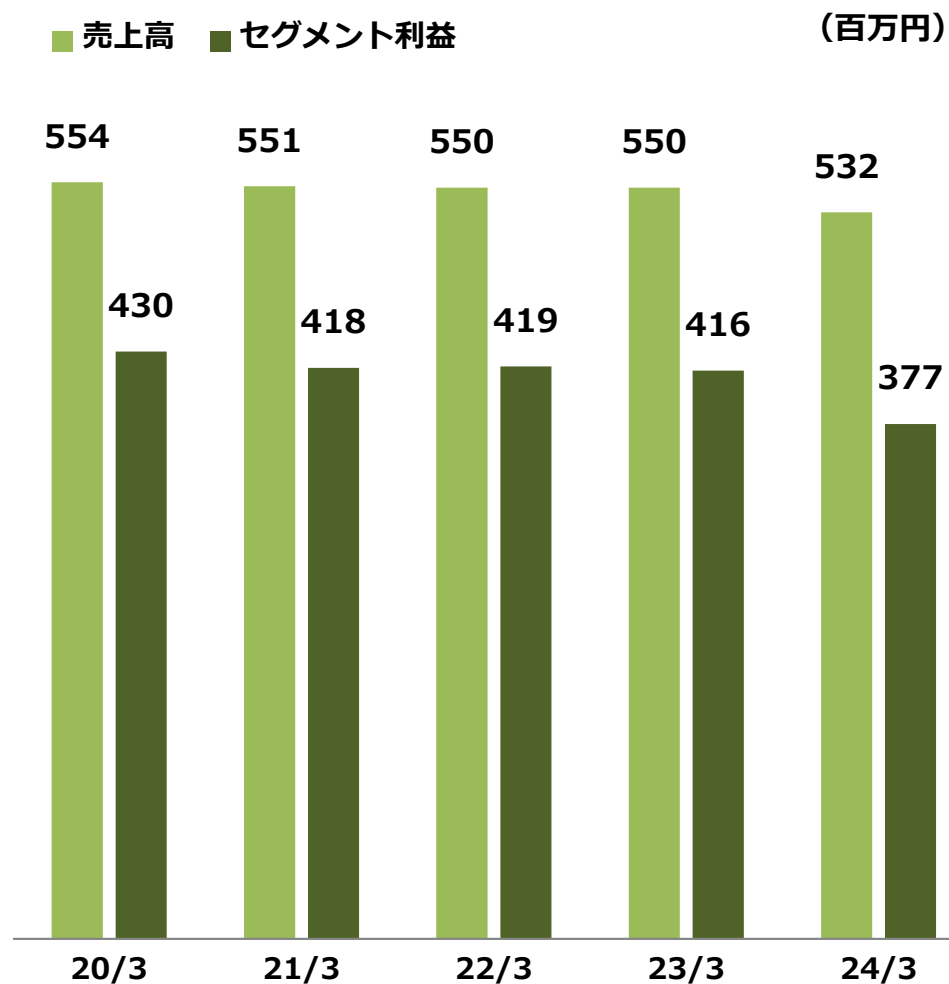
さまざまなモーターが使われている自動車では、高出力で高効率なサーボモーター&ドライバーの開発は、カーボンニュートラルの実現に大きく貢献



# 当社の強み 2

## ■ 保有不動産からの安定収益

不動産賃貸事業推移



東京都内に賃貸用ビルを4棟所有。  
本社厚木工場用地の一部を賃貸中。  
引き続き安定収益を確保していく。

- 
1. 会社概要
  2. 2025年3月期第2四半期決算概要
  3. 2025年3月期の業績見通し
  4. 新中期経営計画について
  5. 参考資料

# 2025年3月期第2四半期累計 連結損益の概況

売上高 : 北米市場の需要の落ち込みの影響等もあり若干減少。

利益 : 減価償却費の増加や電動系新商品の開発費の先行負担等の影響もあり減少。

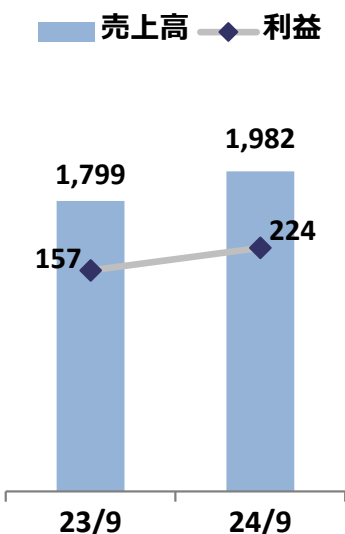
(単位：百万円、下段は構成比)

	2024年3月期第2 四半期累計	2025年3月期第2四半期累計			
		実績	前期比	計画 (5/15公表)	計画比
売上高	4,916 (100.0%)	4,842 (100.0%)	▲1.5%	4,100 (100.0%)	+18.1%
売上総利益	1,614 (32.8%)	1,657 (34.2%)	+2.7%	-	-
販管費	853 (17.4%)	990 (20.5%)	+16.1%	-	-
営業利益	760 (15.5%)	666 (13.8%)	▲12.4%	300 (7.3%)	+122.2%
経常利益	993 (20.2%)	694 (14.3%)	▲30.1%	300 (7.3%)	+131.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	693 (14.1%)	534 (11.0%)	▲22.9%	150 (3.7%)	+256.3%

(単位：百万円)

## ガス機器事業

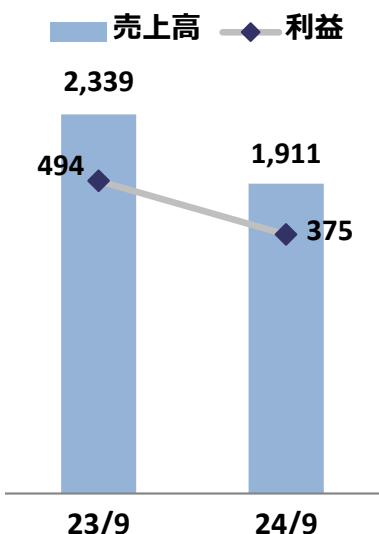
売上高 +10.1%  
利益 +42.5%



➤ 中国市場向け製品の販売増加等により増収増益

## 汎用機器事業

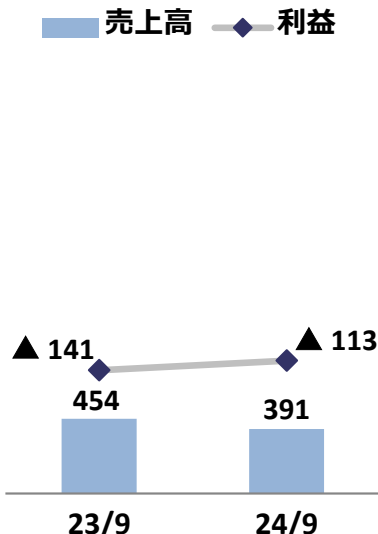
売上高 ▲18.3%  
利益 ▲24.1%



➤ 主要マーケットである米国市場の在庫調整の影響等により減収減益

## 自動車機器事業

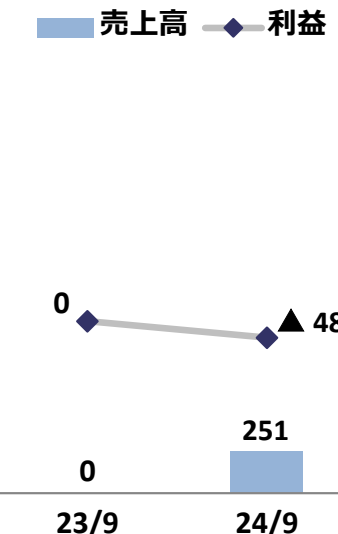
売上高 ▲13.8%  
利益 +19.6%



➤ インド市場向け製品の販売は増加したものの、フォークリフト向けキャブプレターの販売減少等により減収となるが、採算性の改善等により営業損失縮小

## 産業機器事業

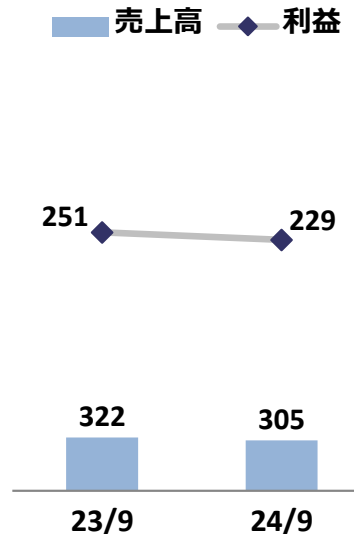
売上高 — %  
利益 — %



➤ のれん関連の償却負担等もあり営業損失計上

## 不動産賃貸事業

売上高 ▲5.4%  
利益 ▲8.5%



➤ 賃貸不動産の変更（譲渡・取得）等により減収減益

# 2025年3月期第2四半期 連結貸借対照表の概況

(単位：百万円、下段は構成比)

		2024年3月期末	2025年3月期第2四半期末		主な増減要因
				前期比増減額	
資産合計	流動資産	9,039 ( 39.2%)	9,795 ( 41.5%)	+756	【流動資産】 ・現金及び預金 +682 ・仕掛品 +302 ・売掛金 ▲176
	固定資産	14,025 ( 60.8%)	13,836 ( 58.5%)	▲189	【固定資産】 ・機械装置及び運搬具 ▲109 ・建物及び構築物 ▲78
		23,064 (100.0%)	23,632 (100.0%)	+567	
負債・純資産合計	流動負債	5,992 ( 26.0%)	6,081 ( 25.7%)	+88	【流動負債】 ・短期借入金 +900 ・未払法人税等 ▲622 ・支払手形及び買掛金 ▲187
	固定負債	4,676 ( 20.3%)	4,658 ( 19.7%)	▲17	【固定負債】 ・退職給付に係る負債 ▲29 ・その他固定負債 +15
	負債合計	10,669 ( 46.3%)	10,739 ( 45.4%)	+70	
	純資産合計	12,395 ( 53.7%)	12,892 ( 54.6%)	+497	・利益余剰金 +330 ・為替換算調整勘定 +161
	負債・純資産合計	23,064 (100.0%)	23,632 (100.0%)	+567	
	ネット有利子負債	2,993 ( 13.0%)	3,206 ( 13.6%)	+212	

※ネット有利子負債 = (短期借入金 + 長期借入金) - (現金及び預金)

# 2025年3月期第2四半期累計 連結キャッシュフローの概況

(単位：百万円)

		2024年3月期 第2四半期累計	2025年3月期第2四半期累計	
				主な内容
営業キャッシュフロー		1,535	167	・税金等調整前中間純利益 717
				・減価償却費 432
投資キャッシュフロー		▲1,789	▲216	・売上債権の減少 282
				・法人税等の支払 ▲827
フリー・キャッシュフロー		▲253	▲49	・仕入債務の減少 ▲420
財務キャッシュフロー		▲257	668	・有形固定資産の取得による支出 ▲165
				・無形固定資産の取得による支出 ▲78
換算差額等		164	54	
現金及び現金同等物の期末残高		4,229	4,504	
設備投資額		325	308	
減価償却費		277	432	

- 
1. 会社概要
  2. 2025年3月期第2四半期決算概要
  3. 2025年3月期の業績見通し
  4. 新中期経営計画について
  5. 参考資料



# 2025年3月期 連結損益の見通し

(単位：百万円)

	2024年3月期実績		2025年3月期計画		
		構成比		構成比	前期比
売上高	9,355	100.0%	8,400	100.0%	▲10.2%
営業利益	904	9.7%	680	8.1%	▲24.8%
経常利益	1,278	13.7%	670	8.0%	▲47.6%
親会社株主に 帰属する当期純利益	2,192	23.4%	500	6.0%	▲77.2%
設備投資額	4,242	45.3%	467	5.6%	▲89.0%
減価償却費	673	7.2%	785	9.4%	+16.6%

## ■ 業績見通し

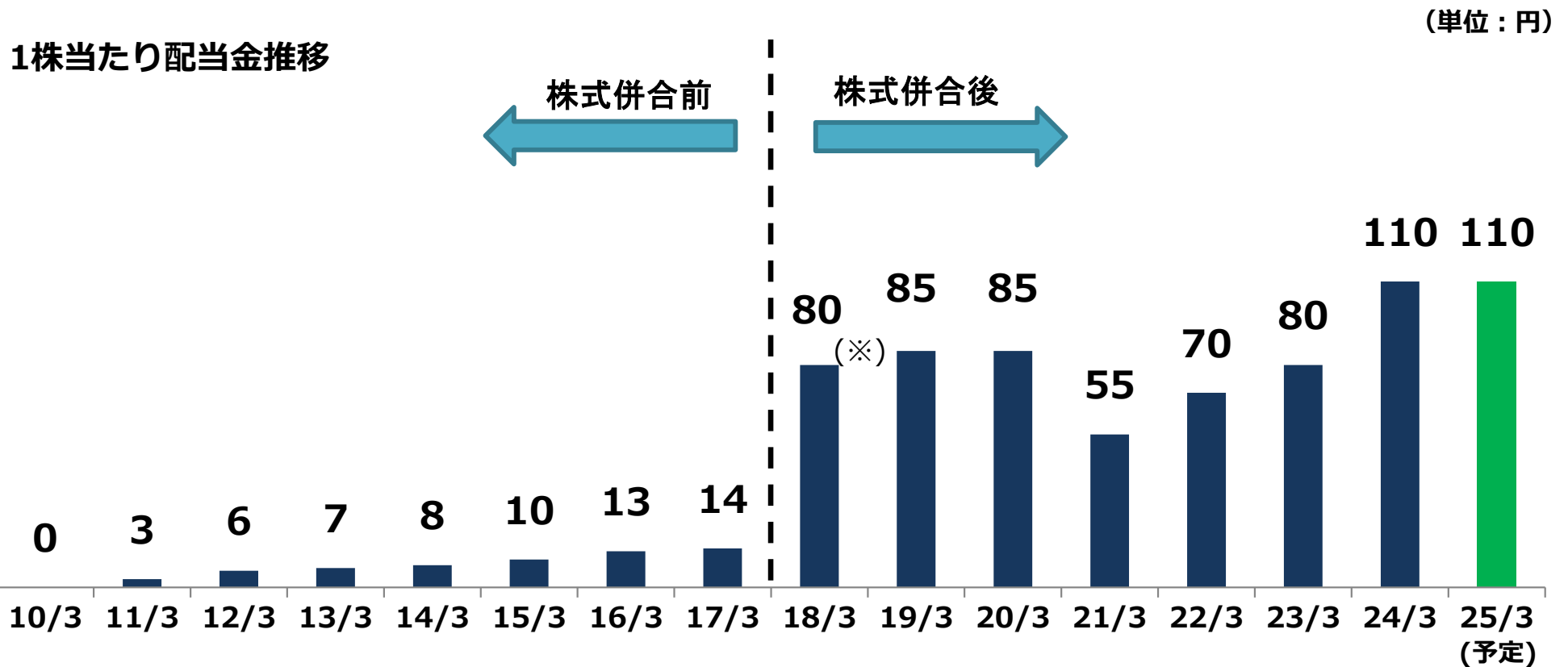
- 上期は、売上高は中国市場向けガス製品の販売が堅調に推移したこと等により予想値を上回る結果となった。損益面は売上高の増加や為替相場が想定よりも円安基調で推移したこと等により、予想値を上回る結果となった。
- 通期の見通しについては、北米市場は景気動向が不透明な状況が続いているため、ガス製品・汎用製品ともに在庫調整が進まず需要が大きく落ち込んでおり、第3四半期以降は厳しい状況が見込まれる。このため、売上高は前回予想値を若干下回る見込み。損益面は、第2四半期累計期間までの実績等の要因もあり、前回予想値を上回る見込み。

## ■ 重点施策

- ガス機器事業～中国市場は変化の大きい需要状況をいち早く把握して売上増加とシェア拡大に繋げる。インド市場は見直し・強化した推進体制でCNG/LNGビジネスを確実に受注し売上拡大を図る。
- 汎用機器事業～更なるコスト低減による収益の改善および価格競争力の強化を図る。競合他社に対してコスト面・品質面で競争力を高めシェア奪取等による売上拡大を図る。
- 新規事業～産業機器事業は生産体制の強化を進め新たな受注獲得に繋げ売上拡大を図る。水素・電動関連ビジネスは市場動向を踏まえて着実な受注獲得と拡販を図る。

# 株主還元方針

- 安定配当をベースに業績及び経営環境等を総合的に加味した配当の継続を基本方針としており、2025年3月期は2024年3月期と同額の110円を予定  
(※当社は、2017年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施)
- 資本効率の向上を勘案し、自己株式の取得等について今後も弾力的に実施・検討
- 配当性向：当面、連結ベースで30%を目標とする

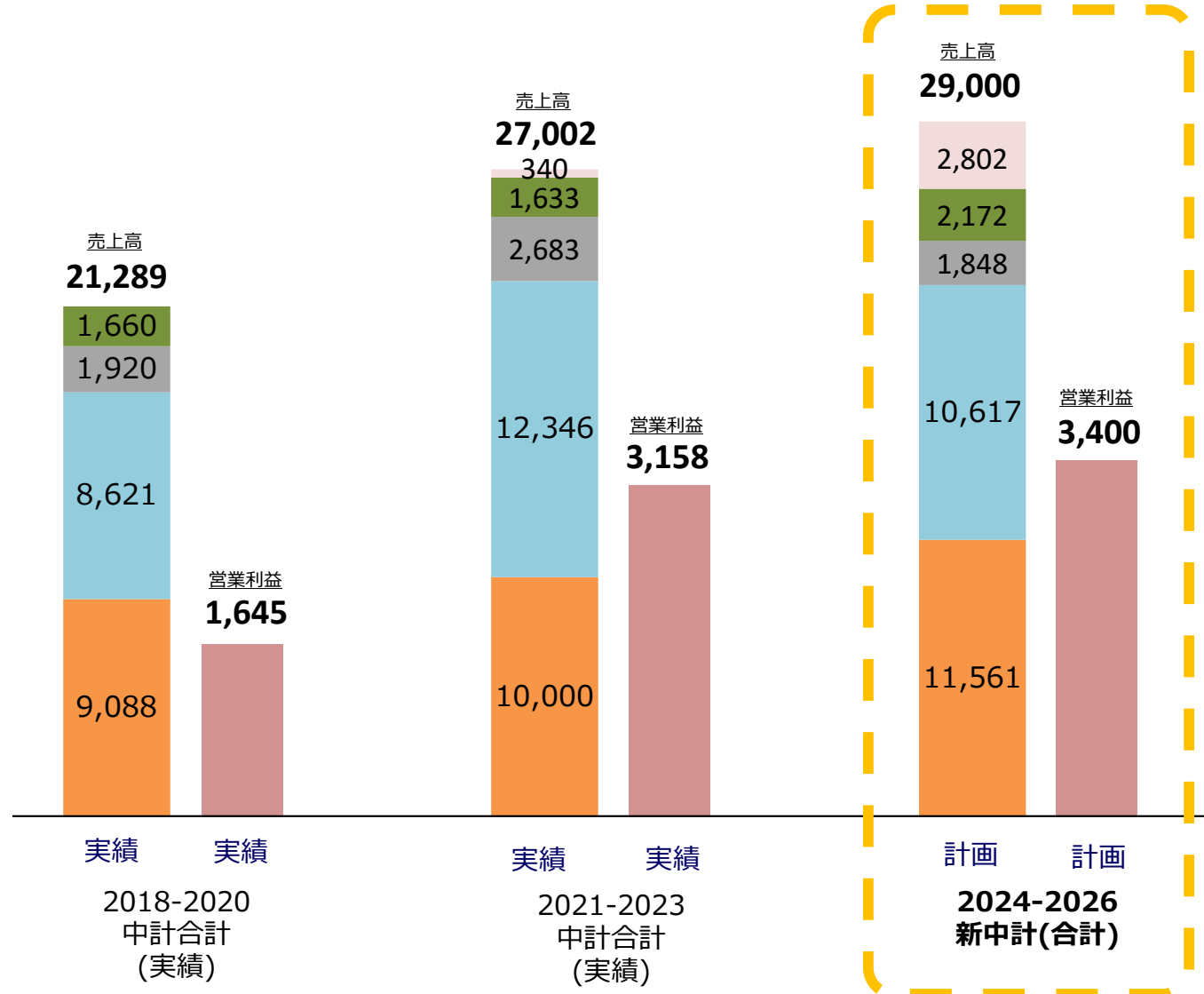


- 
1. 会社概要
  2. 2025年3月期第2四半期決算概要
  3. 2025年3月期の業績見通し
  4. 新中期経営計画について
  5. 参考資料

# 21-23中期経営計画の総括と、24-26新中期経営計画について

■ ガス機器   
 ■ 汎用機器   
 ■ 自動車機器   
 ■ 不動産   
 ■ 新規(産業・電動系)   
 ■ 営業利益

(単位：百万円)



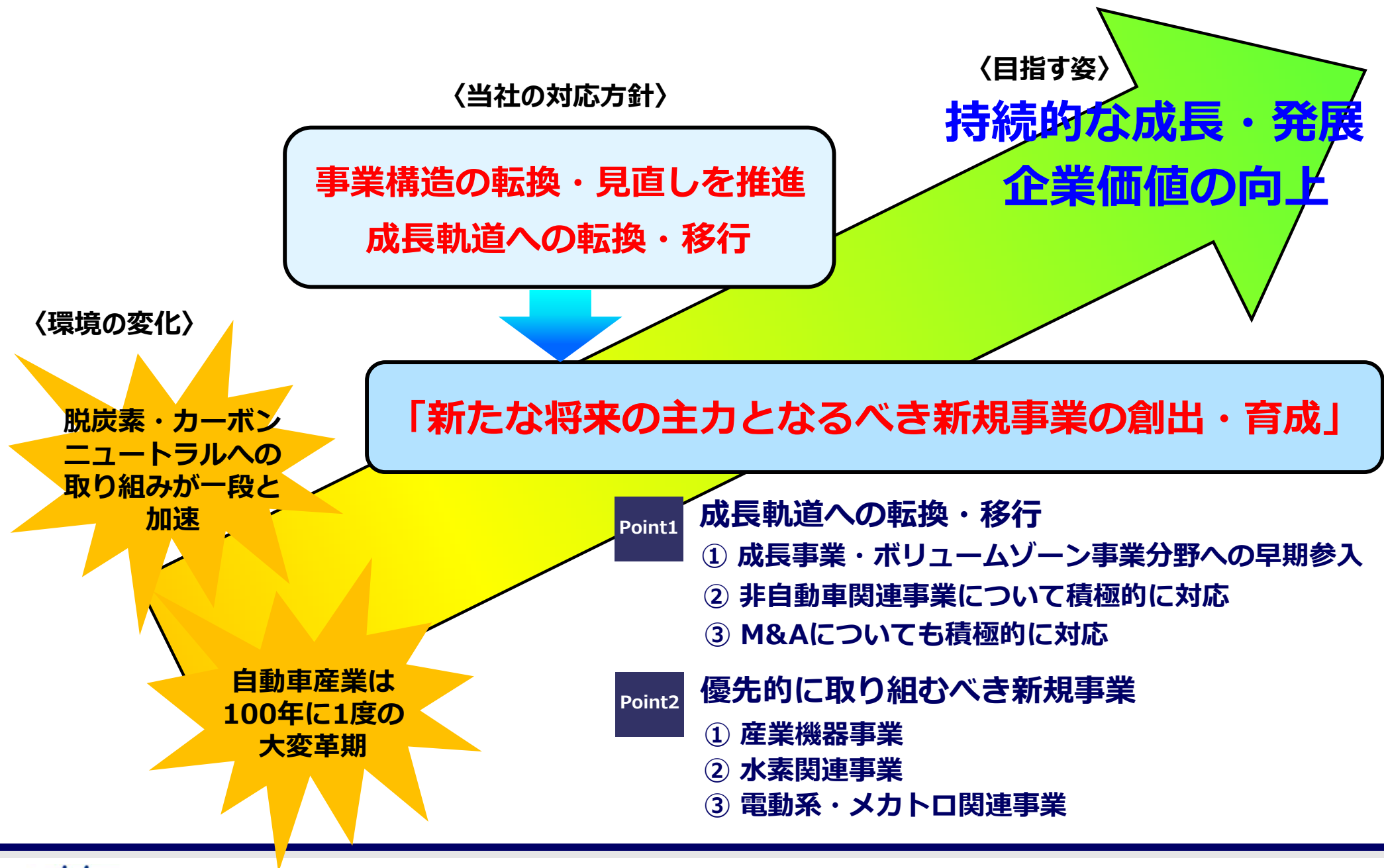
## <21-23中計の総括>

- 売上高については、北米市場向けガス製品・汎用製品の販売増加、中国市場向けガス製品の販売増加等もあり目標（270億円）を達成した。新規事業については、産業機器事業を新たに取り込んだが、電動系は市場ニーズの変化への対応に時間を要し量産受注までには至らなかった。
- 営業利益は、生産拠点の見直しや採算性の改善等により目標（23億円）を大幅に上回った。

# 中期経営計画の骨子

持続的な成長・発展の実現に向け、将来を見据えた事業構造の転換を進め、既存事業に代わる、新たな将来の主力となるべき新規事業の創出・育成に重点的に取り組んで行く。また、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応に着実に取り組み、更なる企業価値の向上を目指して行く。

	重点方針・施策内容	具体的な内容・その他
(1)	成長軌道への転換・移行	<ul style="list-style-type: none"> <li>▷ 成長事業・ボリュームゾーン事業分野への早期参入を図る</li> <li>▷ 自動車関連に固執することなく、非自動車関連事業についても積極的に対応する</li> <li>▷ 新たな事業領域の拡大に向けM&amp;Aについても積極的な対応を図る</li> </ul>
(2)	優先的に取り組むべき新規事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>▷ 産業機器事業は、今後も拡大が見込める市場であり、当社の持つガス関連技術とのシナジー効果も期待できるため最優先での対応を図る</li> <li>▷ 水素関連事業は、従来のガス技術との親和性も高く、今後の市場規模の拡大も見込まれるため積極的な対応を図る</li> <li>▷ 電動系・メカトロ関連事業は、脱炭素により今後の主力市場になると考えられているため、収益性・採算性を見極め積極的な対応を図る</li> </ul>
(3)	資本コスト・株価を意識した経営	<ul style="list-style-type: none"> <li>▷ 資本コストを勘案した設備投資判断の徹底、政策保有株式の縮減を更に進める</li> <li>▷ 株主還元の強化を図るために、配当性向（現在は30%目標）の見直し等を進める</li> </ul>



# 産業機器事業について

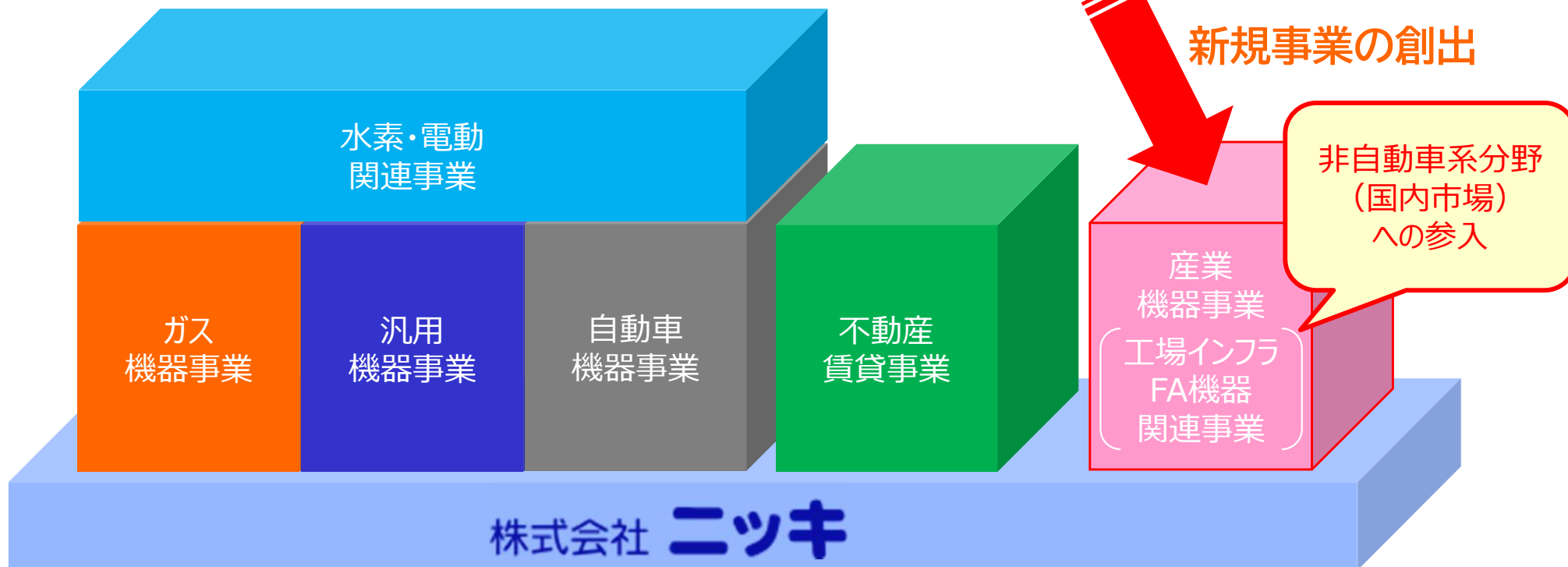
- 株式会社神奈川精工のグループ化の狙い

## 事業領域の拡大・事業規模の拡大

### 株式会社 神奈川精工

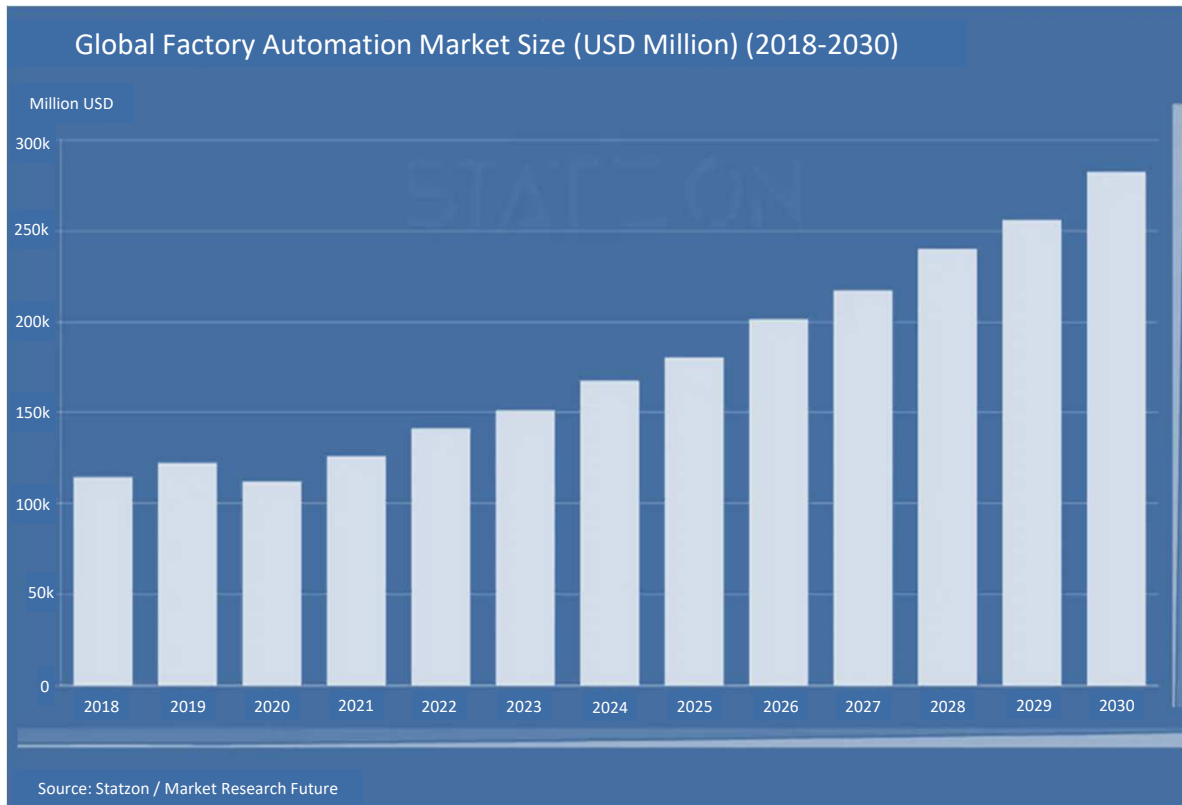
業務内容 : ステンレスを中心とした精密部品の切削加工

主要取引先 : 産業機器関連企業





## FA市場の今後の展望



資料出典: STATZON社 (統計調査会社)ホームページ

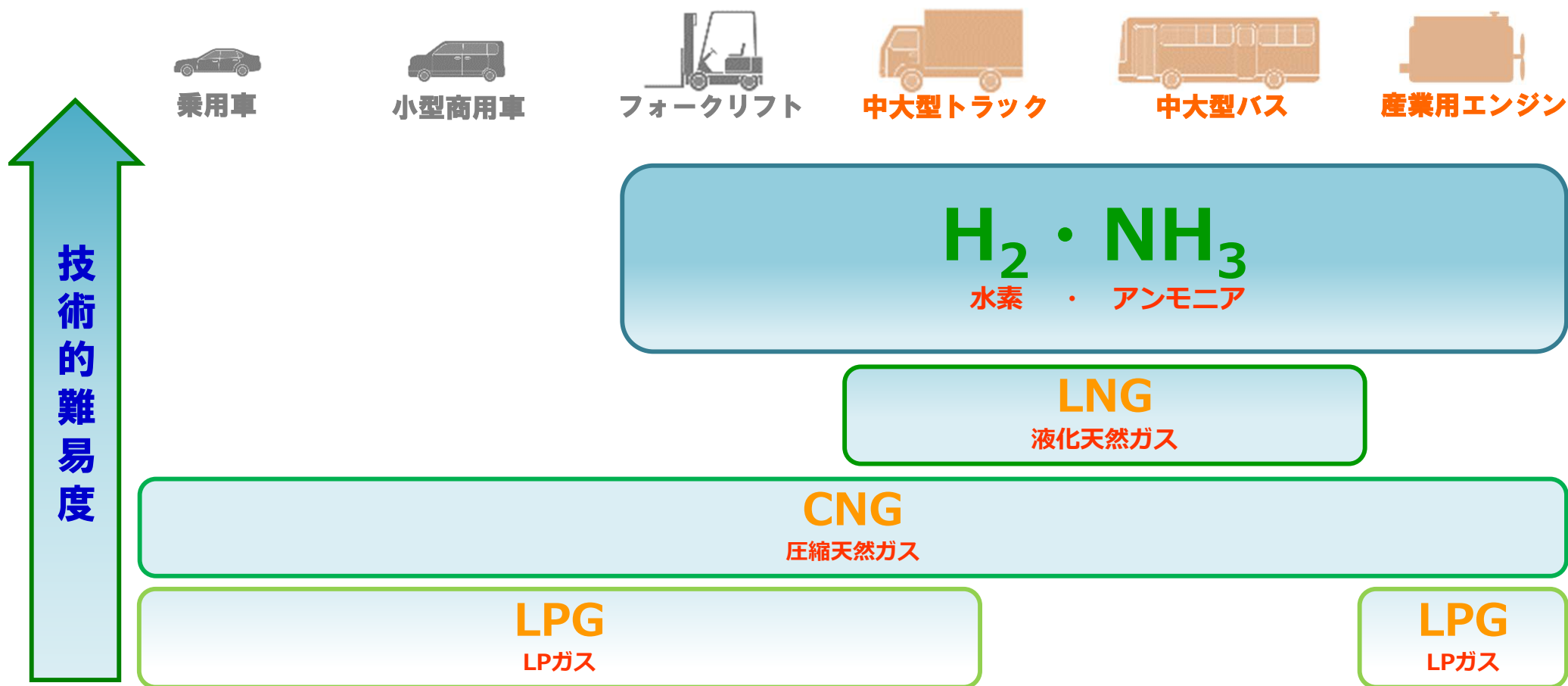
産業機器は、近年の技術革新や環境への配慮、グローバルな経済成長等により、需要が増加

特にFA市場は、ロボット技術や人工知能、IoTを活用した機械同士のデータ共有が積極的に進められ、設備投資の拡大と相まって市場全体が成長

**産業機器事業は今後も拡大が見込める市場**

**当社の持つガス関連技術とのシナジー効果も期待できる**

# 代替燃料に対する取り組み



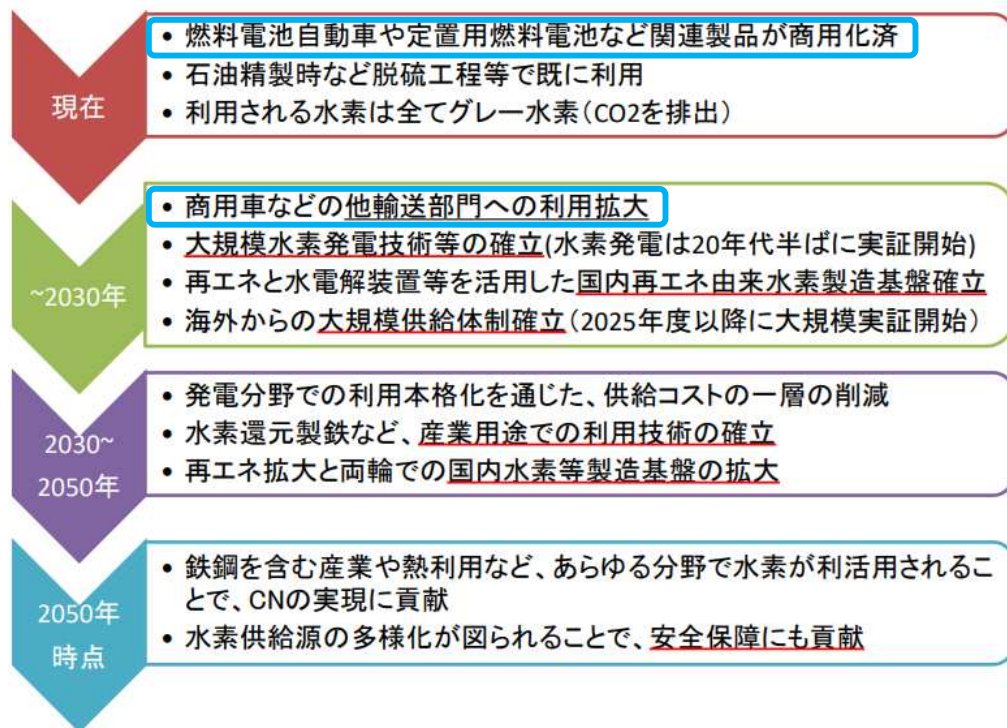
従来対応してきたLPG、CNG、LNG用製品に加えて、新たにカーボンニュートラルに有効な水素・アンモニア対応製品も開発（既存ノウハウの活用）

→ **ガス～水素・アンモニアまで代替燃料の裾野を拡大**

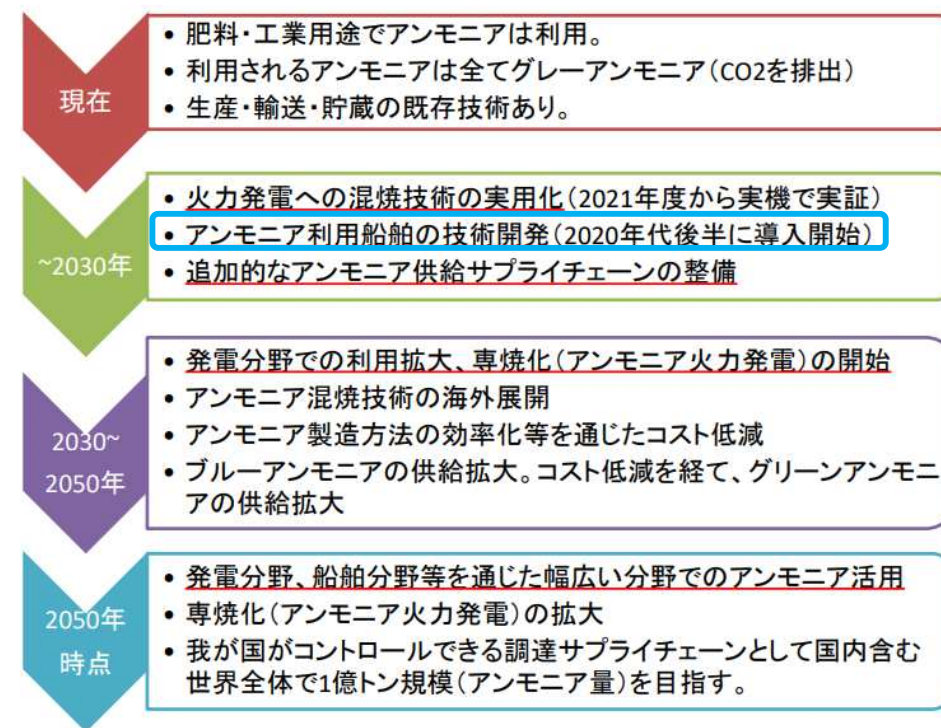
## 下図青線枠の分野で国内外企業に製品納入済

⇒インジェクター・レギュレーター・ミキサー(水素・アンモニア)

### 2050年CNを前提とした 水素の今後の導入拡大(イメージ)



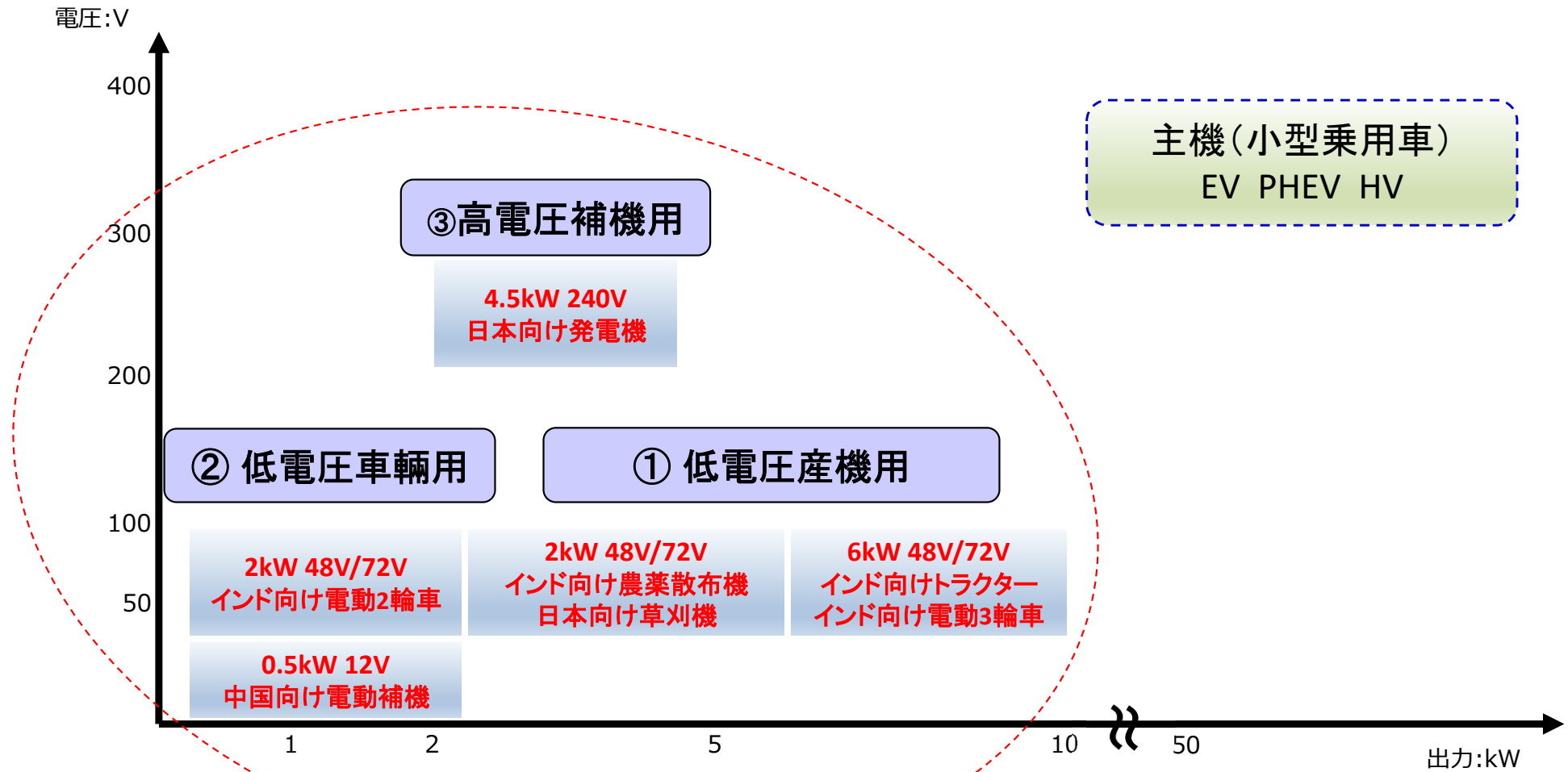
### 2050年CNを前提とした アンモニアの今後の導入拡大(イメージ)



資料出典: 2023年1月4日資源エネルギー庁水素政策小委員会/アンモニア等脱炭素燃料 政策小委員会 合同会議 中間整理資料(青線枠は当社追加)

出力が小さい①低電圧産機用②低電圧車輛用③高電圧補機用へ参入  
→ 参入分野を絞り、大手メーカーとの差別化を図る

【モーター&ドライバーラインナップ】

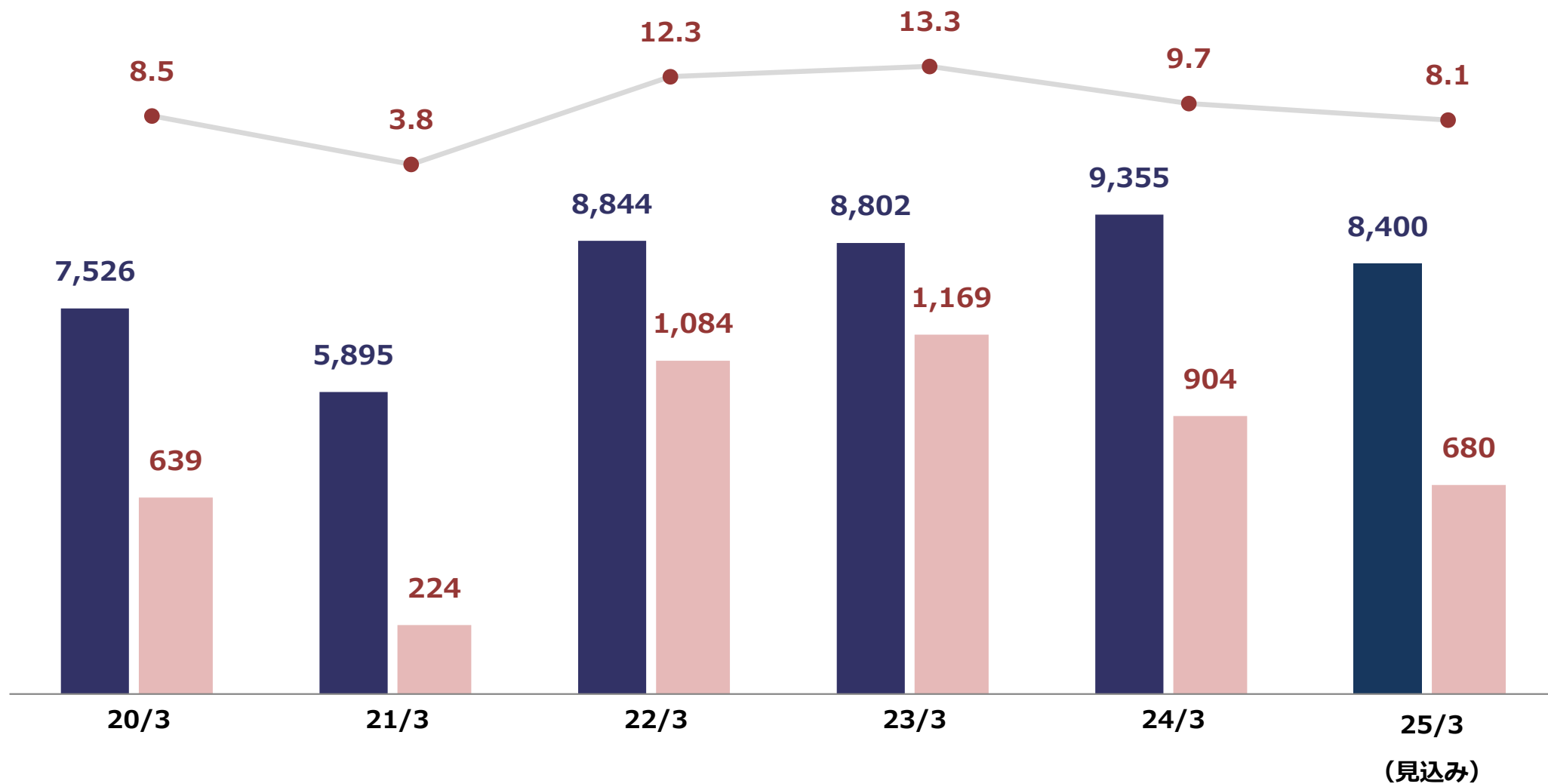


- 
1. 会社概要
  2. 2025年3月期第2四半期決算概要
  3. 2025年3月期の業績見通し
  4. 新中期経営計画について
  5. 参考資料

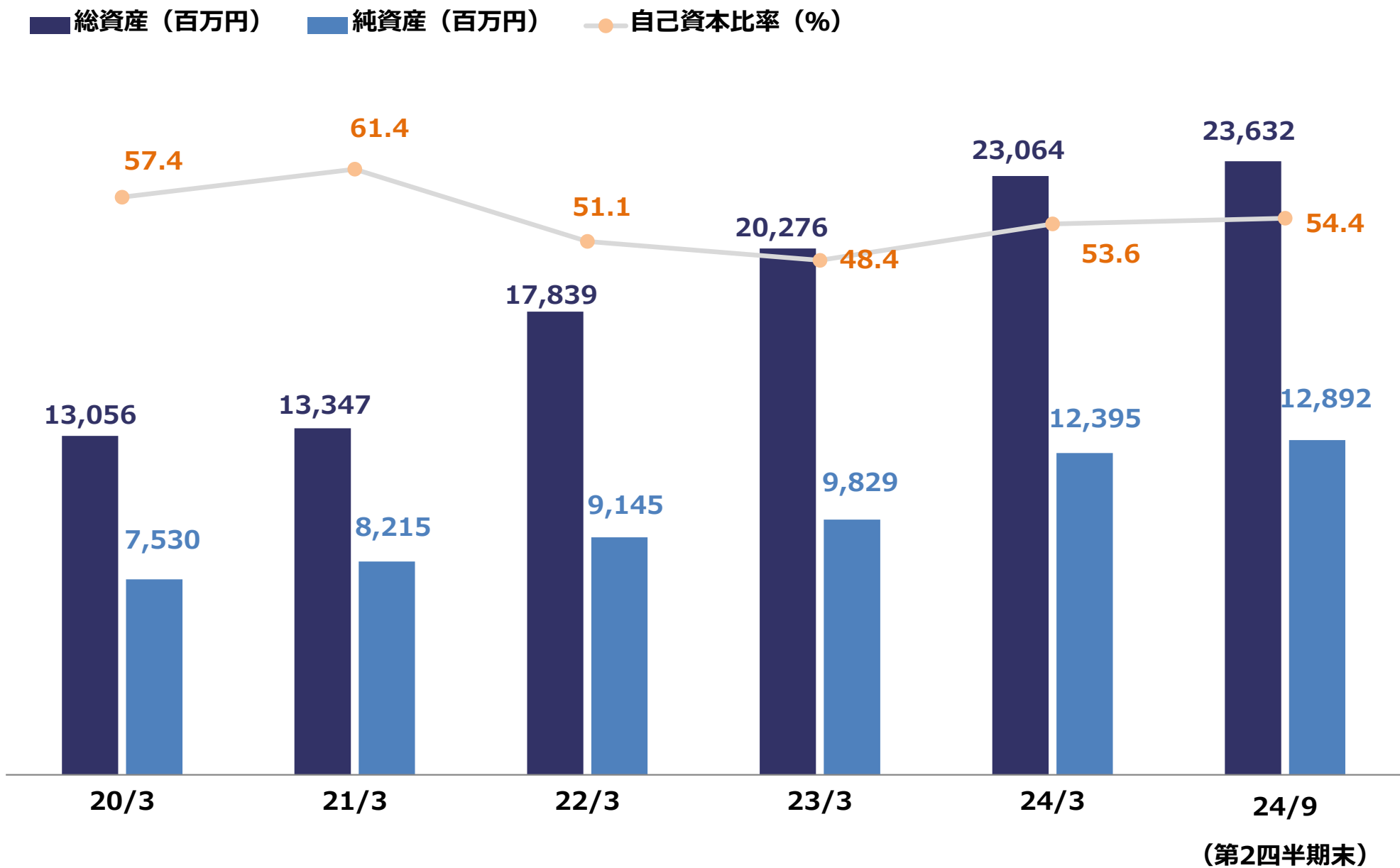
# 連結業績推移 (1)

■ 売上高 ■ 営業利益 ● 売上高営業利益率 (%)

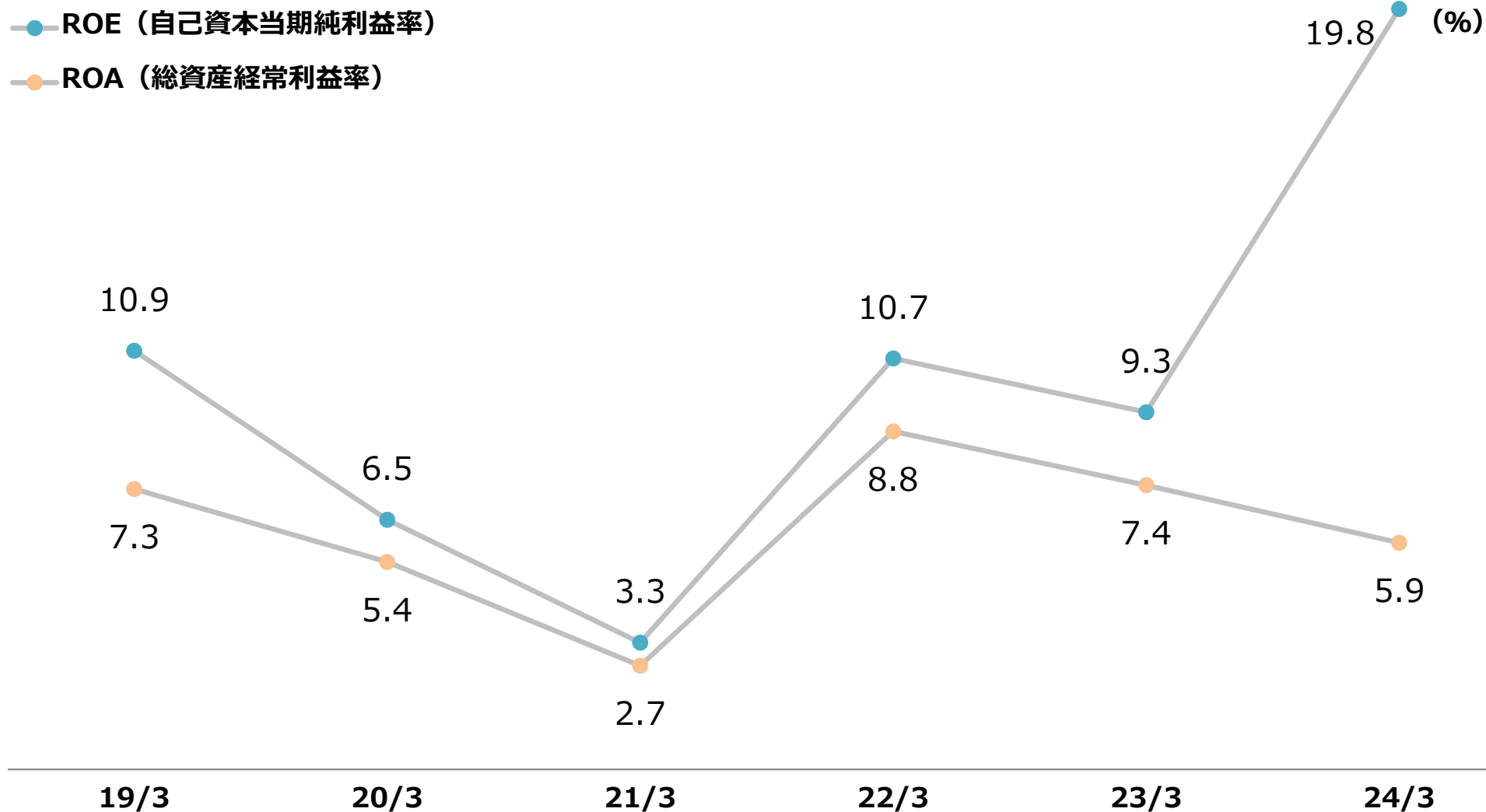
(百万円)



# 連結業績推移 (2)



# 連結業績推移 (3)

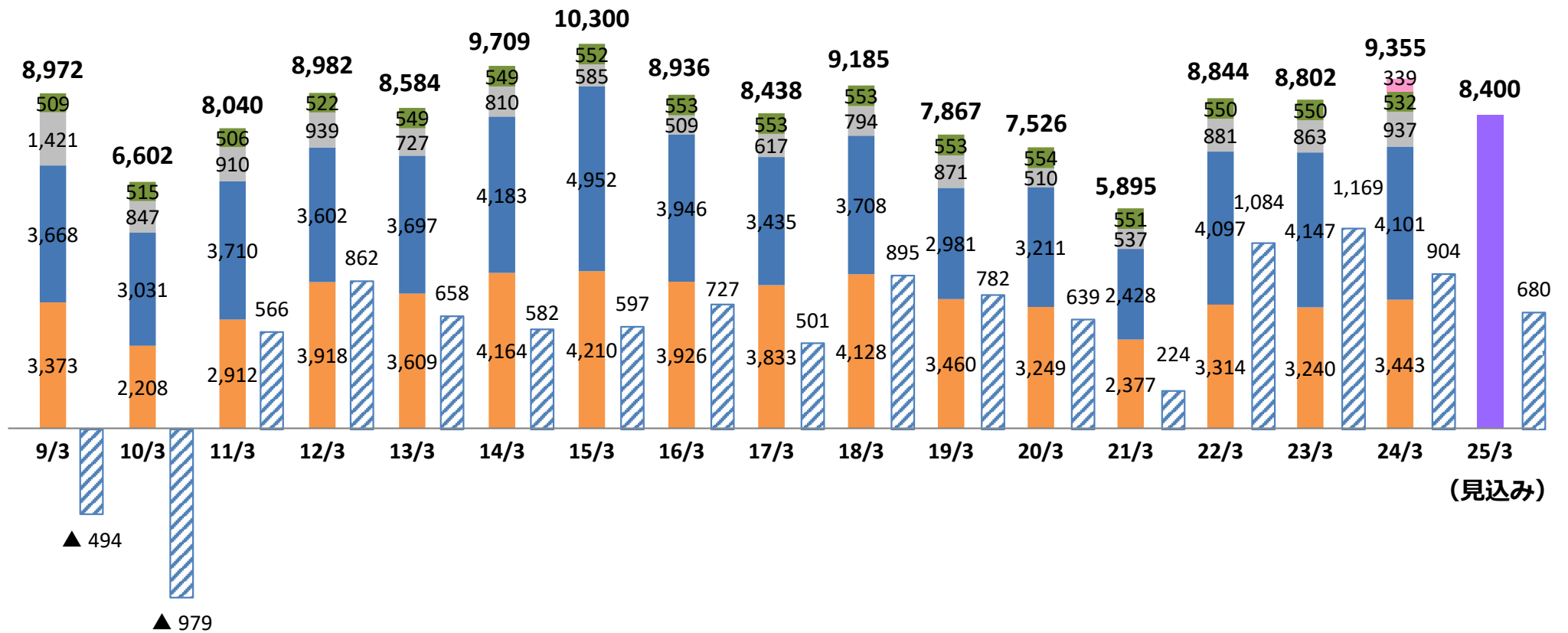




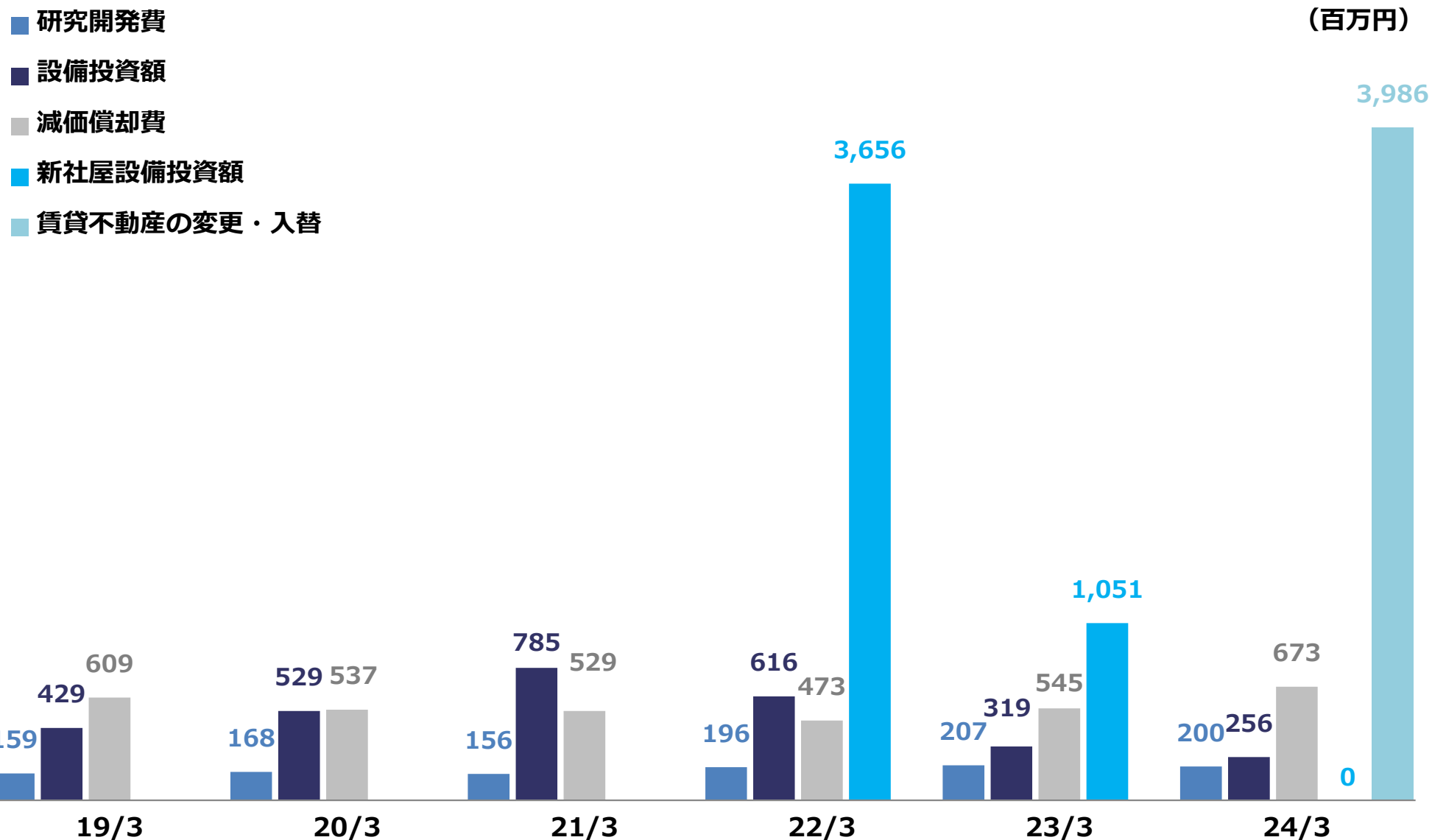
# セグメント別外部売上高、連結営業利益推移

(百万円)

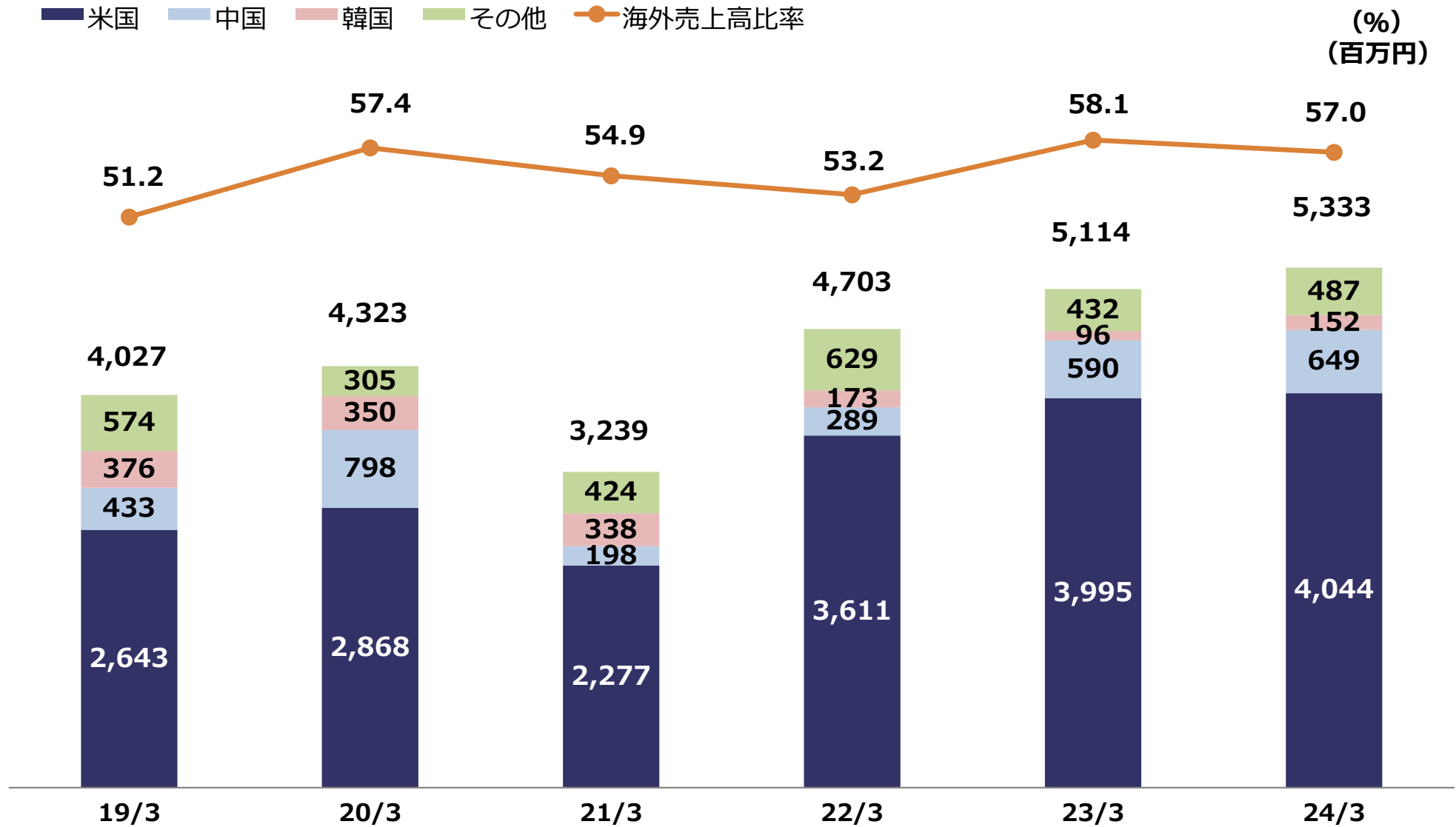
■ ガス機器事業
 ■ 汎用機器事業
 ■ 自動車機器事業
 ■ 不動産賃貸事業
 ■ 産業機器
 ■ 営業利益



# 研究開発費・設備投資額・減価償却費の推移



# 海外売上高推移

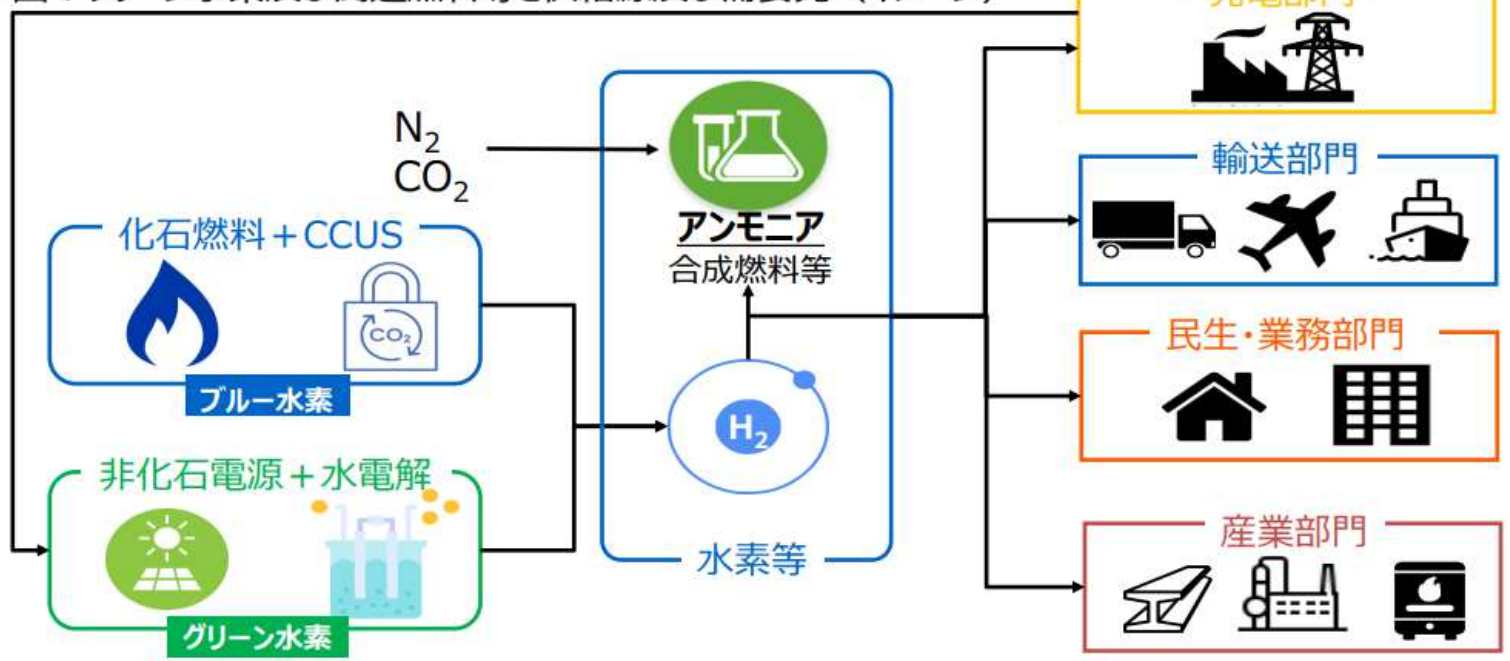


# カーボンニュートラルに必要な不可欠な水素

- 日本はエネルギー基本計画から水素を新たな資源と位置づけ、社会実装を加速させている。

- 水素は直接的に電力分野の脱炭素化に貢献するだけでなく、余剰電力を水素に変換し、貯蔵・利用することで、再エネ等のゼロエミ電源のポテンシャルを最大限活用することも可能とする。
- 加えて、電化による脱炭素化が困難な産業部門(原料利用、熱需要)等の脱炭素化にも貢献。
- また、化石燃料をクリーンな形で有効活用することも可能とする。
- なお、水素から製造されるアンモニアや合成燃料等も、その特性に合わせた活用が見込まれる。

図：クリーン水素及び関連燃料等と供給源及び需要先（イメージ）



資料出典：2023年1月4日資源エネルギー庁水素政策小委員会/アンモニア等脱炭素燃料 政策小委員会 合同会議 中間整理資料

- 本資料は株式会社ニッキ（以下、当社）の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料には当社の業績、戦略、事業計画などに関する将来的予測を示す記述および資料が記載されております。これらの将来的予測に関する記述および資料は過去の事実ではなく、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予測です。
- また、経済動向、他社との競合状況などの潜在的リスクや不確実な要因も含まれています。その為、実際の業績、事業展開または財務状況は今後の経済動向、業界における競争、市場の需要、その他の経済・社会・政治情勢などの様々な要因により、記述されている将来予測とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

【本資料及び当社IRに関するお問い合わせ先】

株式会社ニッキ 総務部経理課

TEL : 046-285-0228 / E-mail : ir@nikkinet.co.jp